

「応援のお手紙」について（お願い）

9年前の東日本大震災後の際、被災地の子供たちが、自宅が崩壊したり自らの親を亡くしたりしながらも、高齢者や自分よりも小さな子供たちを励まし続けているという記事を目にしました。しかし一方で、多くの子供たちが、大人が片付けで大変な時に「子供はじっとしていなさい」と言われ、何の役にも立てなかったことが幼い心を苦しめていたそうです。今回も同じような状況が考えられます。

子供たちは、新型コロナウイルスの防止のため、というのは何だか分かるような気もするけど、本音では、なんだか分からないけど友達と遊んではいけない、なんだか分からないけど学校がずっとお休みになってしまう、という完全に受け身の状態です。なすすべがないのです。この「なんだか分からない」という状態は、私たち大人が思う以上に、漠然とした大きな不安を生み出しています。

また、ご家庭によっては、お仕事の関係で、かなり深刻でしんどい生活を送られていると思います。どんなに小さなお子さんでも、肌感覚で家族の様子がいつもと違うことはわかります。小学生であれば、家族が大変なときには自分も役に立ちたいと思います。家族が、悲しんだり苦しんだりしている時には、自分も何かしたいという思いを強く持っています。今回の新型コロナウイルスについての社会や家族の状況も、その子にわかる範囲できちんと伝え、家庭でできることを一緒に考える必要があるのではないのでしょうか。

今、どんな状況なのか説明をした上で、『じゃあ、何ができるかな？』と子供たちと一緒に考えてみてほしいと思います。子供は勉強してなさい、いいから宿題やりなさいではなく、洗濯ものをたたむのを手伝ってくれる？一緒にお料理をしてみる？など、家族の一員として頼りにして、声を掛けてあげてください。役に立っていると思えることがあると、子供たちは自信を持つことができます。『せっかくの機会だから何かできるようになるといいね』と声を掛けることで、子供たちの希望にもつながっていくと思います。大人でさえ、先の見通しが立たないが、期せずしてできた家族一緒に過ごす時間に、「今までできなかったことができるようになる」とすれば、それはきっと希望につながります。

さて、前置きが大変長くなりましたが、このよう趣旨のもと、本校では「がんばっているみなさんに応援のお手紙を書こう」に取り組みます。学校では相談日に説明をしますが、下記の通り、ご家庭が主体となって取り組んでいただきたくお願い申し上げます。

記

- 1 **趣旨 1** 子供たちは、この先、人類史上まったく経験したことのない未知の社会を生きることになる。予測不可能な時代に、自らの手で未来を創造する、社会に創り手になる必要がある。手紙を書くことを通して、今回の受け身の状況を、少しでも自分ごとと捉え、考える機会とする。
- 2 **趣旨 2** この取組を通して、地域にある様々な施設等や、保護者の仕事に目を向けるきっかけとする。感染症を知ること、感染者や濃厚接触者、医療従事者、社会機能の維持にあたる方、家族等に対する偏見や差別等を許さず、生じさせない子供たちを育てる。
- 3 **対象** 学区近隣には様々な施設等があり、医療従事者をはじめ、困難に立ち向かっている人々が大勢いる。がんばっている自分の保護者宛でもよいし、その保護者の職場宛などでもよい。
- 4 **宛名**

例 1	具体的な施設名	たとえば、「昭島病院のみなさんへ」
例 2	働く人あて	たとえば、「おまわりさんへ」
例 3	個人あて	たとえば、「お父さんのお友だちへ」
例 4	家族あて	たとえば、「おかあさんへ」
- 5 **内容** 自分の気持ちが伝わる内容であれば、自由にかく。

